



ふくろう通心

第1回

市民ボランティア 交流まつり ～体験記～



私は弘前学院大学
福祉学科の女子学生です。
11月13日(日)に「第1回
市民ボランティア交流まつり」が、
市民参画センターで行なわれると聞いた
ので出掛けてみました。11月中旬なのに開会の
10時頃には爽やかな秋晴れの暖かい日になりました。



入り口でバルーンアートに目がいきましたがすぐ1階の会場に
向かいました。

そこには野田村での災害ボランティアについての展示やガールスカウト、
環境に関する様々な展示がありました。高齢者疑似体験コーナーがあって、実際
に私もゴーグルと耳栓と体にたくさんのおもりをつけて少し
体験してみました。まず、簡単には椅子から立ち上がれない、
視界が狭くなる、など、高齢者の辛さを実感しました。



2階は託児・休憩コーナーでした。

窓際にはデイケアや障がい者施設で作ったパンやケーキ、焼きそば、
手芸品の店がずらりと並んでいて、知らない人同士が気軽に話し合える
ようなホットな雰囲気のコナーです。

同じ階にある煎茶教室では、いれ方や飲み方を教えてもらいながら、大変
おいしいお茶をごちそうになり、私は茶道に興味を覚えました。

3階には各団体の活動を報告する写真や絵手紙、施設の人たちが作った工作などの展示があり、マッサージ
のコーナーでは、色々なハーブを使ってのお茶が紹介されていて、私はミント
を使ったお茶で爽やかな気分を味わいました。

午後は、桜川ちはやさんの「分かち合う時間と心 私にもできるボランティア」などの
講演があり、笑いを交えての話にみんな熱心に聞き入っていてとても良かったと思います。

参加してみて、各ブースでたくさんの方々と話合って、いろんな話を聞くことができ、それ
だけでも新しい世界が広がる感じがしてとても興味深かったです。もっとたくさんの人に気軽に参加
してほしいと思いました。

来年はあなたも是非参加してみませんか？



「食と産業まつりのボランティアを体験して」

毎年恒例の食と産業まつりが、10月14日(金)～16日(日)まで3日間行われました。

私は、エコ活動のゴミ分別に、初めてチャレンジしました。パネルには缶、ビン、プラスチックなどきれいにイラストで書かれていて、まるでオープンカフェの様に見入ってしまいました。頭でわかっている、具体的な見やすい絵だと子供たちも自分から進んでやりたくなりますよね。

最初はシーンとしていたエコステーションも、時間がたつにつれてにぎやかになりました。

ゴミを持っているけどどうすればいいのか？悩んでいる方には一声かけることも必要です。「ご協力ありがとうございます」とお礼を言えば「どうもありがとう」と言ってくれる方もおりました。

お昼近くには、市民の皆様、他県からおいでのお客様にもご協力いただいて、思っていた以上にスムーズに進みました。私たちのお世話をして下さるスタッフも、お客様もみんな初対面なのに、会話の中の笑顔に心がなごみ、人ってつくづく支えられているものなんだと実感いたしました。

今、忘れかけていた原点に戻り、みんなが1つになろうとがんばっています。今回の活動も、これからを担う子供たちにとっての体験型学習になったと思います。

お天気にも味方してもらって、皆さんとってもやさしくて、相手の笑顔や感謝の言葉に、私もたくさん元気をいただきました。

様々な方と出会って、貴重な体験ができて、とても学び多い1日でした。

携わって下さったスタッフの皆様ありがとうございました。

野呂一美さん



「被災された方々に寄り添って」

9月23日、大槌町精霊流しの支援に行ってきました。

私自身、4月の幼稚園のがれき撤去以来、2度目の大槌町でのボランティアでした。

今回の精霊流しは「心の復興支援」というスローガンの下、行なわれました。大槌町の方に灯ろうに亡くなられた方への思いやメッセージなどを書いていただき、一緒に組み立てました。敷地内では、三味線ミニコンサート、嶽きみやわたあめの振る舞い、スノードーム作り体験、似顔絵、物資提供の縁日も催しました。

日が暮れ、灯ろうを流す際、時折激しい雨に見舞われましたが、ほんのり灯された60個の灯ろうを眺めていると、被災された方、また自分自身も揺れ続けた数ヶ月の出来事、心の動きに思いが巡り、雨に濡れ、冷えた体でなぜだか温かい気持ちになりました。

実際に大槌の方々と顔を合わせ、お話を伺う機会が多く、涙やそして笑顔にも出会い、深く心に染み入る今回のボランティアでした。今後も支援を通して、被災された方々に寄り添っていけたらと思いました。

ボランティアスタッフ



編集後記

私たち書き手は、専門家でもなく、中に経験者がいるわけではなく、普通の一般市民ボランティアのメンバーです。もちろん市職員の支えや協力、助言があつてのことです。34号までには色々なことがあつたけれど、一般人としての目線を無くさないようにして、少しでも役立つ情報を提供していきたいと思えます。

ボランティアスタッフ一同

豆知識 小さな心がけ

昨年はインフルエンザで大騒ぎでしたが今年はどうでしょうか。何か一つ心がけるのではなく、色々知っていた方が良いでしょう。例えば、「風邪薬を飲んでる時はにんにくを食べないほうが良い」、「鼻水はこまめにかんだ方がウイルスが外に出て治りが早い」、「首にマフラーを巻くと体が温まる」、「ねぎは毎日少量とった方が良い」などです。その他小松菜には若さを保つ三大ビタミンA、C、Eが多く含まれているので朝食に一品追加した方が良いでしょう。今年も元気に冬を乗り切りたいものですね。

ボランティアスタッフ

<製作>市民ボランティアスタッフ
<製作協力>弘前市ボランティア支援センター
〒036-8355 弘前市大字元寺町1-13
弘前市民参画センター2階
月～土曜 9時～17時
TEL: 38-5595 FAX: 36-1822
HP: <http://www.hi-it/~vsc>

情報紙についての意見・感想をお待ちしております。